

調査研究活動実績

氏名 武石 利彦

令和5年度の政務調査研究に関する主な活動の実施状況を報告いたします。

1. 中山間地域対策の調査研究

昨年度に引き続き中山間地域における高齢者の見守り、買い物弱者対策、移動手段の確保などについて調査研究を行った。山間集落における小売店に継続して営業していただくための課題調査、後継者に引き継ぐための調整や情報提供などの活動を行った。また集落活動センターの取り組みにおける成果と課題を探るとともに、事業の安定継続に向けた課題の調査も行なった。また地域おこし協力隊の活動についての調査研究も行った。

2. 物流の2024年問題が本県に及ぼす影響と対策の調査研究

物流の2024年問題は園芸産品や水産物など本県の一次産業、また県民の日常の暮らしに大きな影響をもたらす懸念がある。そのため関係者から同問題への対応などについて聞き取り調査を行い、対策が十分かどうか課題を探った。

3. 動物愛護についての調査研究

昨年に引き続き、保護犬、保護猫の増加が地域社会の課題になっている中、ボランティアの保護活動について調査研究を行なった。TNR活動の推進や獣医師の支援体制の構築に向けた活動、災害時にペットとともに避難できるようペット防災についても調査研究を行った。地震や豪雨により避難せねばならない状況下において、ペットを置いて避難できずに住民が被災するケースが懸念されている。引き続きペット防災についての調査研究に取り組む。県が動物愛護センターを設置する方針が固まったが、今後は市町村において同様の愛護センターの機能を持った施設が設置されるよう取り組みたい。このことは県下各地で愛護活動に取り組む活動家の負担軽減に繋がるからである。

4. 健康長寿づくりについての調査研究

昨年度に引き続き高齢者のフレイル予防についての調査研究を行なった。

特に医療機関との距離が遠い中山間地域の高齢者に向けた対策は急務である。

昨年引き続き、医療関係者、薬剤師などと協議を進め、高齢者の健康長寿を延ばすための仕組みづくりに取り組んだ。またヘルスケアモビリティなどの遠隔診療が山間集落において求められている。引き続き山間地域における遠隔診療の推進に向けた調査研究に取り組む。

5. 災害に強い県土づくりにむけた調査研究

能登地方の大震災が発生し復旧にも困難を極めている。本県としても学ばねばならない点が大いにあると考える。災害に強い県土づくりはもとより仮設避難体制の構築、ライフラインの迅速な復旧、フェイクニュースに惑わされぬよう正確な情報提供体制の構築などに取り組む。

6. 有機農業の推進に向けた調査研究

県内で有機農業に取り組む生産者の団体の取り組みを支援するとともに成果や課題について調査研究を行った。少量多品種の有機野菜の希少価値を高めるような販路の開拓、そのための知名度アップに取り組む活動を支援した。食の安全性への関心が高まっている中、中山間地域で付加価値の高い有機野菜づくりの取り組みを広げることが、移住者や若手の農業参入も期待できることから、地域の活性化にもつながるものであると考える。今後は取り組みを広げるためにも販路の拡大にも取り組むとともに、学校給食への供給についても探っていきたい。

7. 柑橘類の生産拡大についての調査研究

本県の中山間地域で栽培されている柚子、ポンカンなどは、六次製品化が進むなど中山間地域にとって将来展望を描くことができる産業に成長している。高齢化が進む本県の中山間地域において、多くの若者が雇用されるなど中山間地域の活性化を図ることができる産業であることに着目し調査研究を行った。若者の新規参入を図り生産性を高め中山間地域の産業として発展するよう今後も取り組む。

以上